

東京東雲

鳥取県立鳥取東高等学校同窓会東京支部
東京東雲会会報 第2号
令和元年5月発行
編集・発行：東京東雲会
[事務局]
鈴木・曾我法律事務所内 東京東雲会
題字：奥村 浩治(山脈22回)



平成30年 東京東雲会総会&懇親会 集合写真

新しい時代を迎えて

東京東雲会会長 林田 英樹(山脈12回)



5月1日に新しい天皇陛下が御即位になり、年号も改まって新しい時代を迎えましたが、東京東雲会会員の皆様にはお変わりなくお過ごしでしょうか。昨年5月に東京東雲会会報を創刊しましたところ、多くの方々に喜んで頂きましたが、早くも第2号の発行の時期となりました。今年もこの会報で本会の最大の行事である総会と懇親会のご案内ができますことを喜んでおります。

今年も、恒例により7月の第1土曜日である6日の昼に霞が関の法曹会館で開催を予定しておりますので、例年にも増して多くの方のご出席をお願いいたします。なお、これまで開始時刻を12時半としておりましたが、食事時間を早めに取りたいとの考えから、30分早めて12時開会といたしますので、お間違えないようご注意ください。

今年の総会での講演は、CMディレクターで au の「三太郎シリーズ」などの制作で有名な浜崎慎治氏(山46)をお願いすることができました。若い人たちにも関心の

高いお話が伺えることでしょう。恒例のくじ引きも、中島睦夫さん(山5)の特別のお手配で素晴らしいお土産を取り揃えていただけるものと思います。

今回の会報では、なるべく皆さんに興味をもっていたき、懇親会での会話が弾むように会員の情報や母校の歴史と現状、鳥取の話題などを多めに取り上げてもらうようにしました。特に、顔と名前が一致して共通の話題がある人を少しでも増やしていただけるように配慮しておりますので、活用して頂きたいと願っております。会のホームページには、創刊号からはじめて今後発行する会報を順次アップする予定ですので、総会にご出席の時には、可能な方は予め目を通して頂けるとお役に立つのではないかと思います。

会の今後の継承のためには、財政的な自立が課題になっていることは、創刊号のご挨拶でも触れたとおりです。会員の皆様には、年会費の2千円のお振込みをお願いするとともに、可能な方は昨年からはじめた5千円の維持会費のお振込みをいただくと幸いです。また、会報への広告掲載やご寄付によるご支援も歓迎しておりますので、よろしくお願い申し上げます。



東京東雲会 平成30年度総会&懇親会



平成30年度総会が、7月7日法曹会館に於いて開催されました。鳥取で避難指示が出されるほどの集中豪雨の中での開催となりましたが、本部 常田会長・滝波事務局長、母校 尾室校長も無事到着され、県東京本部 谷長副本部長、鳥城会(鳥取西高同窓会)吉田会長、京阪神東雲会 岡田会長にも御出席頂き、山脈3回(柏葉25回)から62回までの幅広い年代の卒業生約100名の会員の出席のもと開催されました。

細谷副会長の司会で第1部総会がスタート。出席者全員一堂に会したところで校歌斉唱。昨年11月6日逝去された西村和義元会長(山1)のご冥福を祈り、黙とうを捧げました。

第1部の総会では、林田会長から「東京東雲会で『絆』を深め、もっと多くの会員が参加される『楽しい会』にしていきたい」と挨拶。次に奥田幹事長から昨年度の事業・会計報告、副会長が藤田博美さんから同期の本城一隆さんへ引き継がれたこと、また新たに幹事として加わって頂いた15名の方々の名前が読み上げられこれらを承認、新役員を代表して本城新副会長が挨拶されました。その後、来賓紹介があり、来賓を代表して常田享詳東雲会会長、

母校東高 尾室真郷校長からご祝辞を頂き、創立100周年へ向け学生・同窓生共に頑張っている様子をお話し頂き、郷土鳥取の今、母校東高の今を伺い知ることが出来ました。そして藤田副会長の挨拶を経て、全員で記念写真撮影し第1部が終了。

第2部の懇親会は、中島相談役のプロデュースで、司会も真嶋副会長と福美幹事に代わり、山根副会長の開会挨拶、鈴木名誉会長のご発声により全員で乾杯してスタート。お土産に頂いた豆腐竹輪に、あご竹輪、そして西瓜に舌鼓みを打ちながら、故郷に思いをはせ、母校・青春を語り、親しく歓談が続きしました。そして本年のハイライト、棚橋恭子さん・中島寄恵さんのミニコンサート、ビオラとチェロの奏でる素晴らしい音色に一同魅せられ、アンコールの声でもう1曲、盛況でした。

そしてその後は恒例の福引で盛り上がり、横山勇さんの『貝殻節』、全員で『ふるさと』を歌い、大久保・中嶋両副会長の閉会挨拶と手締めで、来年の『楽しい仲間』との再会を誓って散会となりました。

唄って・語って・聴いて・そして楽しんで…懐かしき鳥取・そして東高!!
東京東雲会幹事長 奥田真三



昨年の総会 & 懇親会に参加して

(敬称略：卒業年順)

私の生まれは鳥取市外吉方、鳥取大学農学部を卒業して東京の食品会社に入社。鳥取の民謡・童謡が好きです。特に貝殻節は良い唄です。東京東雲会も林田新会長が就任され新役員も若返り、会報を創刊する等、活気に満ちた活動のスタートをしています。総会の参加者にも若い方が増え、にぎやかに感じています。そして30年間の平成の時代が終わり新しい年号の時代が始まります。鳥取二中の最終卒業は昭和24年ですが、ここ数年出席者が少なくなりました。東京東雲会の基盤を造られた先輩方々を称え、今後も二中校歌と東高校歌の斉唱を続けていただきたいと思います。懇親会の楽しみのひとつに、鳥取から持参していただいた「あご竹輪」と「豆腐竹輪」と「砂丘西瓜」があり、鳥取の話に花を咲かせながらいただきました。



(山脈5回 横山 勇)

東高を卒業後、東京と米国に長く在住し、2007年に帰国後、初めてこの会の存在を知りました。1回目の参加は10年程前でしたが、同年代の同窓生がほぼ見当たらなかったので翌年からは足が遠のいていました。しかし、「東高愛」が強すぎて(笑)、再度10年ぶりに参加させて頂きました。その中で、新会長様から東高校長様へのご質問で、「何回も聞かれているとは思いますが、一体いつになったら我が東高は甲子園に出れるのでしょうか?」というやや自虐的な質問に、場内は爆笑の渦となっていたことが印象的でした。(まさにお聞きしたかったところです!) 関東在住の東高同級生とは、年に数回飲み会やゴルフなどを通して旧交を温めていますので、次回は是非、東京東雲会にも誘い合って参加して、皆様と共に盛り上げていけたらと思います。



(山脈34回 荻原聖子 旧姓：中島)

関東に住む山12回生は、いつの頃からか新年に集まるようになった。今年も14人が顔を揃え、無事を確かめ旧交を暖めた。世話役の存在が大きい。昨年の総会は林田新体制のスタート。華やかで活気もあり、再会を喜ぶ笑顔が会場に溢れた。母校の現校長は、時が流れ、歳を重ねて、喜寿の同窓会を済ませた私たちより一回り以上も若い尾室先生。「新しい時代を生き抜く生徒像」を模索する毎日とおっしゃる先生の話にエールの拍手を送った。また、毎年参加されている諸先輩の姿は私たちの励みになっている。創立百周年も近い。みんな元気でいてね!



(山脈12回 霜村 光恵)

昨年度の東京東雲会総会にて、ヴィオラを演奏させていただきました棚橋恭子です。当総会への参加は初めてでしたが、鳥取総会に続いて2回目となりました。高校時代の友人とはよく連絡を取り合い、とてもいい友人関係が続いていますが、今回このような機会をいただき、普段お会いできるはずのない様々な世代の同窓生の皆様とお会いできましたこと、そして演奏を聴いていただけましたこと、とても光栄でした。ありがとうございました。それぞれ全く違う人生を歩まれた皆様がこうして折に触れて集まり、繋がりあえるのは、本当に素敵なことですね。また参加させていただき、いろいろなお話を伺いたいです。また、昨年演奏した私達の他にも母校東高卒業の音楽家の方々がおられます。今後、いろいろな組み合わせでの演奏を聴いていただけたら幸いです。



(山脈55回 棚橋 恭子)

私は東高を卒業以降、東京で6年間の学生生活を送った後、広島を職場として30年以上を、更には米国で約4年を過ごしましたが、鳥取に実家がありますので当然鳥取との縁が切れることはありません。東京には3年前に転勤し、昨年の総会に初めて参加しました。子供時代を共に遊んだ幼馴染とおよそ50年振りに再会するなど望外の驚きや、懇親会での鳥取の食材の懐かしさ、更には二次会に繰り出しての思い出の話など、東京での新しい繋がりを期待させるに十分な機会を得ることができました。総会、懇親会の企画・運営にあたっては、幹事の皆様方には多大の御苦勞をお掛けするものと思いますが、今年も参加を楽しみにしております。



(山脈19回 森本 和夫)

新日本海新聞社に入社後、東京異動に伴い、取材も兼ねて初参加させていただきました。自分が何回生かも不確かなままでしたが、多くの大先輩方と出会い、遠く離れていても母校や古里を慕い続ける皆さんの思いに触れるうち、自分の中にふつふつと愛校心が芽生え始め…今では、一つでも多く、東京東雲会の活動を紙面上で紹介できたらと意気込んでおります。東京在任中はお世話になります。宜しく願いいたします!



(山脈62回 井上 雅大)

鳥取東高クイズ【過去編】

創立100周年が近くなりましたが、みなさん覚えていますか?

Q1：鳥取東高の前身である鳥取二中の創設に多大な貢献をされた人物は『徳田平市氏である』 ○か×か?

Q2：鳥取東高の初代校長は誰? 1. 森重浩校長 2. 林重浩校長 3. 尾室真郷校長

Q3：2020年に「東京オリンピック」が開催されるが、鳥取東高の同窓生で過去オリンピックに出場した人の数は何人?

クイズの答えは8ページ左下に▶

古代東高史

倉恒 貞夫(山脈3回)

第1回 新制『東高誕生』

昭和24年4月新制鳥取東高が誕生、発足しました。

一中、二中、県立女学校、市立女学校などを、昭和23年に一高、二高、三高、市立高と名称を変えていわゆる新制高校(6・3・



3制の3で、旧制は、小学校6年、中学校5年であった)にしたものを、再編成して、鳥取市内は東高、西高の二つに分けてしまいました。市内の若桜街道を境にして、東側に住んでいる生徒は東高へ、西側に住んでいる生徒は西高へ、元の学校が何であろうが、このどちらかの学校へ行かなければいけないことになりました。又、東高、西高は総合高校で、あとで、東高よりは、鳥農、鳥工、岩美高が分離することになり、又、西高からは、商業が分離しました。西高の夜間や、通信は分かれようがないようです。

このときの東高普通科生徒数は、1年生318名、2年生210名、3年生92名(一高より110名、二高より195名、三高より145名、市高より131名、他に新制中学より55名)の合計620名。県外からの通学者も多く兵庫県
の浜坂、西浜地区から72名ありました。1年生が非常に多く、3年生の3倍以上であったし、又男女の比率もアンバランスで、男子342名、女子277名でした。

二中の校舎は、終戦のころは、兵隊が入っていて、炊事場や、馬小屋、むしろ張りの便所などがグラウンドに建てられていて、その名ごりが、あちこちに見え、建物の壁などはタールで、迷彩して、汚くよごしてあり、天井から雨の漏るところ、廊下の板をふみ抜きそうところ、壁の板がはがれて落ちそうところ、ガラスのこわれた窓……

1年生は多いので、1年生だけのホームルームでしたが、2年、3年は一緒の混合のホームルームとなりました。しかし、この日まで男女七歳にして席を同じくすべからず、という教育を受けて来た我々です。又、五日制で教育課程は自由選択制。

自分の授業の時間割を勝手に作り、授業の教室を時間毎に移動して勉強する(民族の大移動と称していましたが、学年を解いて同じ授業を受けることもありましたが)のです。中に「ブランク」と称する時間をつくって、勝手に遊んだりもしました。グラウンド周辺の桜は太い枝を地面まで垂らし、グラウンドはクローバーが一面に生えていました。生徒会活動、臨海学校、文化祭、校内大会……これから始まります。

(写真は平成8年度京阪神支部総会で挨拶をされる倉恒先生)

鳥取東高の恩師を語る時、この先生のことを思い出す同窓生の方々は多いはず。倉恒貞夫先生(山3)は、東高で昭和31年～38年と、鳥取西工業で7年の勤務を経て、昭和46年4月～平成6年の定年まで教壇に立たれました。東雲会本部の副会長としてご活躍中され、東京東雲会総会にもよくご出席いただきました。『古代東高史』は、倉恒先生が京阪神支部会報に寄稿されたものを、京阪神支部と先生のご了解を頂いて、今号より掲載していきます。

鳥取東高クイズ【現在編】

- Q4：過去“戦後のベビーブーム世代”には、1学年11～12クラスの時代がありましたが。現在の鳥取東高のクラス数は？
 Q5：鳥取東高の伝統的な行事、「臨海教育」は『現在も実施されている』○か×か？
 Q6：鳥取東高の文化祭では、『現在も生徒がシンボルを作っている』○か×か？

クイズの答えは8ページ左下に▶

広告

鈴木・曾我法律事務所
 弁護士
鈴木 誠(山脈5回)

〒100-0011 東京都千代田区内幸町2丁目2番1号
 日本プレスセンタービル 3階
 Tel:03-3503-7272

広告

公益社団法人 日本工芸会
 理事長
林田 英樹(山脈12回)

〒110-0007 東京都台東区上野公園13-9
 東京国立博物館内
 Tel:03-3828-9789

鳥取への執心

渡邊 達也(山脈3回・柏葉25回)



私は山脈3回ですが鳥取二中の最後柏葉25回でもあります。しかし、実はもともと鳥取の出身ではありません。戦前、東京で小学校に入り、事情があり愛知県・大阪府へ転居、大阪空爆の後岡山へ疎開し、小学校を転々として終戦を迎えました。そのため少年時代は友達といえる人はいませんでした。昭和21年父が計画事業で鳥取市に転居しました。父の事業は計画通りに運ばず、経済的にも最も厳しい時代でした。これが私が鳥取二中に入学までの経緯です。今でも二中の校歌:「松籟清き稲葉山…」が脳裏に残っています。

アメリカ占領時、従来の分岐型学校体系が単線型の6・3・3制に改められ、男女共学、無月謝などが取り入れられ、学区制も布かれ、中学は義務教育になりました。鳥取二中は第二高等学校になり、さらに工業・実業等を統合し鳥取東高等学校となり、私たちは鳥取東高附設の中学校になり、そのまま東高に進学になり

後続がないため4年間是最下級生でした。制度の過渡期で、男女共学やホームルーム制など、遠い昔のこと詳細は思い出せません。

私は小柄で病弱でしたので、体力作りにと二中で軟式庭球部に入部しました。ここで部員仲間、先輩・同輩・後輩と話し合える知人友人に出会えて、戦後間もない混乱期に思春期の青年時代を過ごした鳥取二中、東高の6年間に特に強い思い入れがあります。夕方までテニスに夢中になり、進学の勉強など殆どしなかったので大学は無理と言われましたが、幸い理学部に入学できました。大学でも部活を続け、社会人になってからも大学のOB会他いくつかのクラブで軟式庭球(現在のソフトテニス)をこの歳になってもまだ続けています。今ではソフトテニスは生活の一部になっています。

この執着心もあり東高のクラス会・同期会・東京東雲会には殆ど参加してきました。同期の多くの方が既に亡くなられましたが、東京東雲会にあまり同期が参加しないのは残念です。鳥取には6年間しか居ませんでしたが、「出身地は？」と聞かれると、中学・高校を過ごした淡い青春時代を想い、「鳥取」と答えているのです。

京阪神東雲会からの便り

京阪神東雲会

松本泰尚(山脈12回)



昨年は7月の東京東雲会、8月の鳥取の総会、11月の京阪神東雲会に参加しました。同窓会が盛会かどうかの一つに内容と参加人数があります。東京ではいつものように100を超える参加者とイベント、抽選会。鳥取では、役員のご努力で地元の銀行、JA、役所などの働きかけで例年の倍を超える参加、会場もモナークの大会場を使いました。イベントも書道部の書道パフォーマンスもあり書道部の保護者も特別に見学され大盛り上がり。京阪神では抽選会の他にオプションで浪速の夕暮れクルージングもあり大勢の人が乗船しました。船から見える金色の大阪城、下船後のクリスマス色の

イルミネーションが続く御堂筋を歩いたのも思い出になりました。



広告

株式会社 山陰合同銀行

取締役頭取

石丸 文男(山脈24回)

〒690-0062 鳥根県松江市魚町10番地
Tel:0852-55-1000(代)

広告

株式会社 鳥取銀行

代表取締役頭取

平井 耕司(山脈29回)

〒680-8686 鳥取県鳥取市永楽温泉町171番地
Tel:0857-22-8181(代)

名物教師此処に在り

松尾 茂先生



鳥取東高にはいつの時代でも名物教師と呼ばれる先生方がいらっしゃいました。東高に21年に亘って勤められた日本史の松尾茂先生もその一人ではないでしょうか。残念ながら、松尾先生は平成14年4月にお亡くなりになっており、直接お話を聞くことはできませんが、松尾先生と同じ日本史の教師として通算16年東高で働いた私の父・須崎博通に、同僚そして郷土史家の先輩であった松尾先生との思い出を聞きました。 [記：須崎 浩史(山脈45回)]

私が鳥取東高に入学した平成3年には、既に松尾先生は東高を退職されていたけれど、小さい頃から松尾先生の名前はよく耳にしていました。お父さんと松尾先生の出会いはいつだったのですか？

実は、松尾先生は東高の教師になられる前は、鳥取大学附属中学の先生をされていました。私が附中に通っていた時もいらっしゃって、直接教わったことはないけれど、松尾先生は少し怖そうな印象でした。入学間もない身体測定の時、少し騒がしかったのを鎮めるためか、竹の棒を持った背の高い先生が来られて、皆その棒で叩かれるのかと思い、一瞬で静かになったことがありました。こそこそと「コンサンだ」と言う者がいて、あとで分かったのは「コンサン」とは松尾先生のあだ名でした。



昭和56年ごろの社会科教員。松尾先生は前列(3人)の一番左。須崎先生は後列右から二人目。

お父さんは、昭和49年4月から61年3月までの12年間と、八頭高の3年間を挟んで、平成元年4月から平成5年3月までの4年間、鳥取東高で教えていましたが、昭和60年3月に定年退職を迎えられた松尾先生とは、最初の11年間日本史教師の同僚だったのです。

そうです。松尾先生は郷土史の大家として、同僚の先生方から畏敬の念を持って見られていました。松尾先生は学

校では怖い先生との評判でしたが、何故か私には優しくなったように思います。家を建て替えたときに柴山抱海先生の書を頂いたことがありました。

また、谷口書店の主人が、松尾先生は東高の先生の中で、最も本を買われる三人のうちの一人と言っていました。確かに自宅の二階の二部屋を書庫にされていました。その片隅でお話をすることがあり、給料の約半分は本代との噂は本当だろうと思ったのを覚えています。

お酒が好きだったのも思い出します。昭和56年に、教務主任をされていた時、脳出血で喋りが不自由になられ、もう駄目かと思いましたが、ほぼ回復されたことがありました。その間、ノンアルコールのビールを代わりに飲まれていたのを記憶しています。

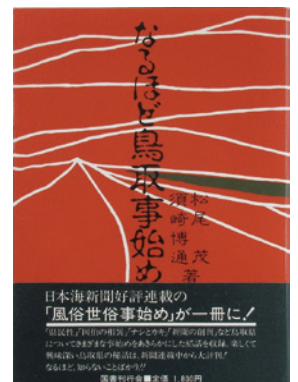


左から須崎先生、松尾先生、池長校長

お父さんが郷土史について調べたり、書いたりするようになったのは松尾先生から誘われたことがきっかけだったと聞きました。どういった経緯があったのですか？

郷土史の大家だった松尾先生には、いろいろな執筆や寄稿の依頼が舞い込んでいました。同じ日本史の教師だった私にその下調べの手伝いをお願いされたことなどもあったのですが、昭和56年9月に新日本海新聞社より出された「鳥取県政100年記念特集号」の中に掲載された「ふるさと事始め」36話のうち4話の執筆が、本格的に松尾先生にも書きを誘われた最初です。

一番の思い出は、昭和58年1月から59年12月に新日本海新聞社の企画で「風俗世俗事始め」が連載された際、松尾先生に誘われ85話のうち27話を執筆したことです。後に『なるほど鳥取事始め』として国書刊行会より昭和60年2月に出版されました。出版当時大変な人気で、鳥取の書店のベストセラーになったことも



『なるほど鳥取事始め』
国書刊行会 昭和60年刊行

ありました。

また、松尾先生は、郷土史家として様々なところで講演されてきました。私が市民大学講座などで講演するようになったのも、松尾先生に口説かれたためです。高校教師としてはもちろんのこと、郷土史家としても本当に目をかけて頂き、大変お世話になりました。



<『なるほど鳥取事始め』から>

『なるほど鳥取事始め』には、松尾先生がご自身のことについて記述されている箇所がある。その一つは、「私の原爆体験」として書かれた「学徒出陣への道」だ。

昭和20年6月、広島に現役兵として入営された松尾先生は、約一ヶ月広島で訓練をうけた後、山口に移られた。ほどなくして広島に原爆が投下されたため、援助のため広島に入り、原爆の惨状を知ることとなった。そのため、松尾先生は原爆手帳を持たれていた。京都大学文学部国史学科を卒業後、教壇に立った松尾先生は、原爆の話をよく学生に話されていたようだ。

<松尾 茂(まつおしげる) 先生のご紹介>

大正13年12月鳥取市生まれ。鳥取大学附中教諭を経て、昭和39年4月～60年3月まで鳥取東高に勤務。その後、鳥取城北高校専攻科で働かれた後、平成14年4月死去された。

(主な著書)『鳥取県議会史 戦前編(昭29)、戦後編(昭50)』(編著)、『鳥取県の誕生』(昭56)など多数。

<須崎 博通(すさきひろみち) 先生のご紹介>

昭和18年9月鳥取市生まれ。米子西、倉吉東、鳥取東、八頭、鳥取西の各高等学校で勤務。平成17年3月に教職を退く。

(主な著書)『地域史からみた古代』(平6)、『鳥取近代化の歴史考-明治・大正期-』(平19)の他、『言葉の輝きは心に(出会いの道踏み)』(平16)など、エッセイも多数出版。

“鳥取の魅力”をカタチにしたい

福美 かおり(山脈57回)



私は学生の頃から仲間と一緒にイベントを企画するのが好きでした。その延長なのか、現在も人が集い、一つのものを創り上げていく空間デザインの会社に勤務し、毎日充実しています。

社会人になってから住み始めた東京で、“鳥取”に関わる新しいつながりを探していたところ、鳥取出身の人たちが集う会を紹介していただいたのを機に都内各地で開催されるイベントに参加、トントン拍子で鳥取のつながりが増えていきました。東京東雲会に出席したのもそのひとつです。

ある晩、鳥取出身の同世代の飲み会に誘われ、詳細も聞かず即諾し参加しました。集まったのは県内出身の20～30代の人たちで、鳥取を共通点に数分後には昔からの知り合いのような関係に。私たちのようにもっと鳥取につながるネットワークが広がればという思いで、コミュニティの場として「TAF(タフ)」を2017年6月に結成し、活動を始めました。名前の由来は「Tottori Amazing Friends」の頭文字をとったものです。同年10月に初の企画「若者を中心とした次世代交流会BBQ」を皮切りに、世代を問わず「特産の蟹と日本酒を楽しむ会」や「皇居の外周をランニングしよう」等のイベントを実施。参加いただいた方や快く協賛いただいた県内企業様に接したことで、改めて故郷の「ヒト・モノ・コト」の素晴らしさを再認識することができました。

鳥取を離れたことで、故郷を思う気持ちがより強くなりました。なんでこんなに鳥取が好きなのでしょう。大好きな人たちと関わって毎日が充実しているのは東高で過ごした3年間



東京で鳥取のつながりをつくろうと結成したTAF。初回開催したBBQイベントは若者を中心に延べ60名が参加。(写真は日本海新聞「楽しい仲間」コーナー掲載記事より)

があったからだと確信しています。また、卒業してもなお、東雲会として母校に関われていることに幸せを感じます。故郷の思いを胸に、これからは私なりに“鳥取の魅力”をかき集め、カタチにしたいという気持ちでいっぱいです。

広告

日進技研株式会社

代表取締役

中嶋 貴輔(山脈15回)

〒101-0032 東京都千代田区岩本町3丁目2番2号
Tel:03-3862-3437(代)

広告

ワインと鳥取に会えるお店

BARURU
~awajicho~
バルル淡路町

店主:片山 香織(山脈45回)

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町1-9-11 1F
OPEN:月～金 16:30～24:00 Tel:03-3526-2460

新役員紹介

副会長 本城 一隆(山脈18回)



微力ですが本会の発展に尽力する所存ですので宜しく願い申し上げます。東高ではバスケットボール部に所属していましたが県大会ベスト4が最高の成績でした。大学卒業後千葉県で公立高校教員になり、千葉東高校の教壇に立ちましたが歴史や校風・校訓など母校と類似していたことを記憶しております。私が初めて当会総会に参加したのは20代半ばの頃で、会場は椿山荘でした。以来毎年参加しております。永年に亘る先輩諸氏の御苦勞により発展して参りましたが、最近若い方の参加が増え、この勢いを更に加速させる為に女性副会長の就任を待望しております。

幹事紹介

会計 鶴賀 一美(山脈22回)



都内文京区で洋服、雑貨を扱うセレクトショップを商っています。東京へは恩師 柴山抱海先生とのご縁で書道の道へ…と思いきや、好きだったファッションの道へ。そして現在に至ります。東京東雲会に携わるようになり、世代を超えて故郷の話で盛り上がり、心の許せる場所となりました。昔から知り合いのような親戚のような東京東雲会、益々良い会になるよう、会計担当として微力を傾けてまいります。

事務局 細井 亮(山脈23回)



初めて東京東雲会の事務局・鈴木誠法律事務所にお邪魔させていただいたのは昭和51年、まだ22才の若造の頃でした。事務作業が終わった後、鈴木先生の事務所の方を含め、東雲会メンバーと共に慰労会でいろいろなお店に連れて行っていただき、とても楽しい時間を過ごさせていただきました。その後何年かお手伝いをし、総会にも参加させていただきましたが、仕事が忙しくなり東雲会と疎遠になり、義理を欠いた状態となってしまいました。前期高齢者となった今、かつての不義理を果たすためにも、恩返ししなければと思っております。

須崎 浩史・中尾 和貴・網浜 貴夫
片山 香織・福田 静香(山脈45回)



片山さんのお店「BaRuRu(バルル)」を起点に、一昨年の総会に参加した際久々に集った面々を、そのまま若めの世代の幹事として迎え入れていただきました。幹事会や会報の編集会議などに参加し、HPやFacebook、会報編集など、自分たちにできる範囲ではありますが微力ながら会のお役に立てれば幸いです。若い会員の皆さんのつながりを広げながら、総会&懇親会では幅広い世代の方々と交流できるのを楽しみにしています。

鳥取東高クイズ【答え】

- 【過去編】A1:○ A2:2.林 重浩校長 A3:2人(藤田 学氏(バスケットボール)、山下 佐知子氏(女子マラソン))
【現在編】A4:7クラス A5:×(大正12年に始まったが平成9年をもって終了) A6:○(一度中止となったが2017年度に再開、1年生がシンボルを作り、以降継続)

おしらせ

令和元年 東京東雲会総会

日時：2019年7月6日(土) 12:00 開会

場所：法曹会館

千代田区霞が関1-1-1(電話：03-3581-2146)

会費：一般 5,000円 学生：1,000円

皆様のご出席をお願い致します。

2018年東京東雲会 TOPICS ~幹事長日記より~

- 7/11 日本海新聞に総会の様子が掲載された。
10/22 事務局業務につき鈴木事務所から引継ぎ。
9/11 鳥取銀行 平井耕司頭取(山29)、伊藤祐介東京事務所長が来訪(応対：鈴木誠名誉会長 林田英樹会長 奥田真三幹事長)
平井頭取から「東雲会鳥取銀行支部が作られた。創立100周年に向け、お互いに東雲会発展を通じて母校の発展に少しでも寄与できればと思っている。東京東雲会が活発に活動されていることをお聞きし、心強い限りです。」との表敬挨拶を受ける。お土産に20世紀梨を頂く。
9/23 日本海新聞「楽しい仲間」に総会の様子が掲載された。
12/22 幹事会忘年会 約30名の出席大いに盛り上がる。スライドショー『鳥取東高今昔』を上映。



鳥取銀行 平井耕司頭取

【編集後記】

今号では、鳥取二中から混沌とした時代の鳥取東高開校の生い立ちや先輩方々のご苦勞に触れる寄稿をいただきました。若い世代の方々も母校の歴史を知ることができ、更に愛着が沸いたのではないのでしょうか。また、新元号へ変わった最初の会報になるとともに、本年開催の7月6日(土)は記念すべき新元号最初の総会となります。“東高らしい温かみのある”総会と懇親会を企画立案中です。あまり普段参加されていない会員の方々にも、今年は是非とも集まっていただき、先輩・同輩・後輩ともに旧交を温めましょう。

(山脈22回 細谷 和夫)

[東京東雲会事務局]

〒100-0011

東京都千代田区内幸町2-2-1 日本プレスセンタービル3階

鈴木・曾我法律事務所内 東京東雲会

電話：090-3087-1394(幹事長 奥田)

FAX：03-3503-7273

Mail：tokyo.shinonomekai@gmail.com

[公式ホームページ]

https://tokyo-shinonomekai.jimdo.com/